

チャレンジコミュニティ

Challenge Community Club

通信



第44号

2020.11 vol.44



医療従事者へ感謝のライトアップ



13期生自然探索(全体)



リモートで実施の運営委員会



13期生Zoom Meeting



13期生Zoom Meeting

CONTENTS ■ ぐあいさつ

高輪地区総合支所協働推進課長

鳥居 誠之

CC大学統括コーディネーター

明治学院大学名誉教授

岡本多喜子

CCクラブ代表

石川 啓子

■ 2020年度 CCクラブ新体制の紹介

■ 学ぶ喜びと出会いをありがとう!

～13期生から寄せられた声～

■ 2020年度 運営部門活動報告

■ オンライン会合体験会・地区CC会議

■ 成年後見制度研修講演会・消毒ボランティア活動

■ 運営委員会報告

コロナ禍にも負けない 地域の力として

■高輪地区総合支所協働推進課長
鳥居 誠之

チャレンジコミュニティ・クラブの皆さんにおかれましては、チャレンジコミュニティ大学で学ばれたことを活かし、地域の様々な分野で活躍いただいております。皆さんの日頃からの積極的な活動にあらためて敬意と感謝を申し上げます。



今年、「令和」に変わって初めてのお正月を迎えた頃には、誰もが、こうしたコロナ禍の状況を想像していなかったと思います。春以降の急速な新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、人々が集まり、ふれあえる場が制限され、地域のお祭りを始めとした多くの催し物等が中止になりました。

本来ならば、今年は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、外国人を含む多くの方々が街が賑わっていたことと思います。山手線で49年ぶりの新駅となった「高輪ゲートウェイ駅」や「虎ノ門ヒルズ駅」にも、もっとたくさんの人が押し寄せていたのではないのでしょうか。あらためて人と人とのつながり、交流、地域コミュニティ活性化の大切さについて、考えさせられる機会となりました。

こうした中においても、チャレンジコミュニティ・クラブの皆さんは元気を失わず、オンラインによるコミュニケーションを始めとした「新たな生活様式」をいち早く取り入れるなど、力強く活動を進められております。その姿に私どもも勇気もらい、皆さんと一緒に、こうした苦境も乗り越えていけると決意を新たにしました。

現在、総合支所では、新たな「港区基本計画・地区版計画書」の策定を進めております。地域の課題を解決し、地域の魅力をより高めるための取組を中心とし、計画をまとめる予定です。

総合支所では、計画の実現に向け、地域で活躍されているあらゆる方々と協働して取り組んでまいります。今後とも、皆さんのお力添えをよろしくお願いいたします。

コロナウイルス感染症とその後

■CC大学統括コーディネーター
明治学院大学名誉教授 岡本 多喜子

私は2020年4月に港区・明治学院大学連携事業チャレンジコミュニティ大学統括コーディネーターとなりました。4月に就任はしましたが、コロナウイルスの世界的な流行により、2020年度生である第14期生の入学は一年延期となりました。



CCクラブの皆様も、これまでの生活が大きく変化したことでしょう。この感染症は、高齢者が感染すると重症化するリスクが高いために、ステイホームを奨励されてきました。このウイルスの厄介な点は、感染しても症状がでるとは限らないこと、症状がなくても他者に感染させる危険性があるという点です。多くの高齢者の方から、外出や運動を止めたためにすっかり足が弱くなったという話を聞きます。

私は高齢者福祉を研究対象としております。これまで高齢者はなるべく外に出て、多くの方々と交流し、自分自身が誰かの役に立っていると感じる有用感を大切にするようにと話をしてきました。しかし今は、外出は控えなるべく人と接することを避け、静かに生活することを奨励されております。これは高齢者の心身状態に悪影響を与える大変な事態です。

しかしペストやスペイン風邪が収束したように、このウイルスもいつかは収束するでしょう。その時に、ウイルスが流行する以前の心身状態を維持できているかどうか、大きな課題です。実際には会えなくとも、私たちは誰かと繋がっています。心身共に元気な状態を維持することが第1にすべきことでしょう。安全を確認して散歩、部屋の整理・整頓、生活が戻った時の計画を立てることで楽しい気分になることでしょう。

いつも今を大切にして、自分自身が誰かの役に立っていると考える生活を送りましょう。世界中が同じ病気で困難に遭遇していることで、地球は一つの集合体であることを改めて自覚させられています。持続可能な社会をコロナ後も目指しましょう。

私たちの活動で、CCクラブを さらに発展させましょう

■CCクラブ代表
石川 啓子 (8期)

令和2年は、新型コロナウイルス感染症という特効薬もワクチンもない病気が広がり始め、残念なことに2019年度の活動報告会が中止、その後も多くの活動が制限されました。6月には、CCクラブとしても初めての書面による総会を行いました。その中で多くの方々から信頼を頂き副代表から代表を務めることになりました。身の引き締まる思いです。



2月から6月まで日本中の多くが自粛生活になりました。港区も「三密」を回避するために多くのイベントの中止を発表しました。CCクラブも対面で行っていたボランティアの多くの活動が止まり、「私たちに何ができるのか」自問する日々でした。

私は、その間にHPの「CC通信1号」から読み返してみました。CC大学創設の思いや生涯教育の学びを「Do for Others」の精神をもって、CCクラブができたことの歴史を感じました。今年の状況下で、役員会、運営委員会の役割は、1期生から培ってきたCCクラブポリシーを生かし、修了生の今後の活動を各部長、地区CC代表と共にどうサポートするかが課題と確信しました。前代表が目指した「CCクラブ内のコミュニケーションをよくする」「地区CCと運営部門との結びつきを強くする」ためにも新しい日常の中、次のことを役員とともに推進していきます。

○会員が互いにコミュニケーションを良くし、協力し合い新しい日常を受け入れ、積極的に地域活動に関わる支援をする。

それらを実現していけるように

*新型コロナウイルス感染状況を十分配慮した活動を考える。

*新しい会議の方法や活動を現状に即して行う。

私は、皆さまが自分らしく輝き、お互いが楽しい活動に繋がるCCクラブの熟成を願っています。どうぞ皆さま一人ひとりのお力をお貸しください。

先輩方が創り上げたこのクラブをご一緒に発展させていきましょう。よろしく願いいたします。

チャレンジコミュニティ通信は、 地域活動推進の情報を提供します

港区は、2007年4月に地域活動のリーダーを養成することを目的として、明治学院大学との連携により、チャレンジコミュニティ大学を開設しました。この大学は港区在住の60歳を超えた方を対象に各々がこれまで培ってきた知識・経験を地域に生かし、生きがいのある豊かな人生を創造し、また学習を通じて個々の能力を再開発することを目指して創設されました。

2008年3月、第1期生の修了を機に自主的な運営組織として、チャレンジコミュニティ・クラブ(略称CCクラブ)が創設されました。この大学で学んだ知識を活用し、地域課題の解決に向け、会員が地域活動を推進することを目的としています。このクラブは地域活動のリーダーを育て、港区のまちづくりや地域ネットワークの構築を進め、併せて各人の資質の向上をはかっていきます。

この目的に沿って、主にクラブ会員を対象に地域活動推進の情報提供や活動状況を紹介するため、チャレンジコミュニティ通信を発行しています。

年間を通しての主な活動は

- ・総会、ホームカミングデー
- ・明治学院高等学校ゲストスピーカー
- ・サイエンス講座
- ・みなと区民まつり
- ・地域福祉フォーラム
- ・活動報告会

などがあります。

また、地域での活動としては

- ・芝CCクラブ(芝地区)
- ・高輪地区CCクラブ(高輪地区)
- ・明虹会(芝浦・港南・台場地区)
- ・3Aクラブ(麻布・赤坂・青山地区)

など多くの活動機会ができています。

これからの皆さんの活動の指針となることでしよう。

ご自分でできることを探してアタックしてみてください。

また会員相互の情報としては各団体等での会員の活躍状況や、クラブ企画の講演会・講習会、施設見学会の開催案内等を適宜紹介していきます。

2020年度 CCクラブ新体制の紹介

副 代 表

太田 則義 (7期)

2020年度が始まり既に8カ月、新しい役員が承認されてから5カ月が経ちました。私たちの生活は新型コロナウイルス感染防止のために大きく変わりました。CCクラブ会員皆さまの活動も大きく変わってしまったと推測されます。CCクラブ運営部門の活動も2月22日の活動報告会の中止を始め一時停滞してしまいました。2020年度は毎年CCクラブが参加した港区や関連団体主催の催事も中止になっています。



この間、運営委員会は3月以降もメール機能を使い継続し、6月には書面総会という形式で会員皆さまの意思表示をしていただきました。9月からはリモート (Zoom) も併用し運営委員会を行っています。各部会は部会長を中心に、苦心をしつつ昨年以上の熱い気持ちで活動しています。

今年度運営部門は「新しいコミュニケーション」の形を模索しながら、コロナ感染防止策を念頭におき活動しています。

13期生の皆様は合宿研修や修了式がなく残念だったと思います。この間の気持ちは会員皆さんも一緒と思います。本来のCC大学の目的をもう一度考え、一緒に活動しましょう。

企 画 部 会

平田 渥美 (12期)

2020年度の企画部会は新型コロナウイルス感染拡大防止下の新しい生活様式の中でCCクラブの会員が楽しく集うことでお互いの絆を深め、情報を交換し、会員一人ひとりの毎日の生活や活動をさらに充実させるとともに、港区や福祉団体、地域イベントとの協働活動に積極的に参加できる環境を整えることを実施していききたいと思います。

これらの目的を解決するため、新しいコミュニケーション形成のためのツールの一つとしてZoomを利用したオンラインミーティングの勉強会を開催していきます。また研修会、講習会などにも積極的にオンラインの活用をしていきます。

港区、福祉団体、地域イベントとの協働活動が

困難な状況にある昨今、どのような手段があるかも探っていきたいと思います。

新しく13期から参加した5名を加えた16名の部会員で積極的に進めていきたいと思っています。



ホームページ部会

福岡 哲郎 (10期)

CC大学10期生として終了後、先輩からのお誘いでホームページ部会に参加することとなり、その後3年間部会員として活動してきました。

今回、部会長の任に当たることとなり力量不足の私ですが新たな気持ちで部会業務に携わろうと考えています。

当部会は4名と少人数ですが、経験豊富な人も在籍しており、そのメンバーとコミュニケーションを図りながら、CCクラブ会員に喜ばれる“もっと見やすい”“もっと身近な”ホームページ作成を目指していきたく考えています。

現在のコロナ禍の状況で対面での会員同士のコミュニケーションが取りづらくなっています。こういう状況のもとホームページを活用したコミュニケーションをCCクラブ会員の皆様に積極的に活用して頂けることをお願いしたいと思います。

また、部会員の募集を随時行っていますので、興味のある方は是非お気軽にご連絡ください。



地域連携部会

森下 和彦 (11期)

地域連携部会はその名の通り起点をボランティア活動の現場である「地域」に置き、地域にある課題の抽出や成功事例の共有などが部会の役割であり、とても大切なことと考えています。今、新型コロナウイルスの影響により、私たちを取り巻く社会環境や人々の価値観は大きく変化しました。民間調査からは、新型コロナ対策の外出自粛などで、シニア世代の約7割が「社会との関わりが減った」「緊急事態宣言解除後も外出頻度は回復しない」「生活意欲に悪影響が出ている」などの報告もあります。最早、コロナ禍以前に完全に戻ることは無いと思われまます。そして私たちCCクラブの活動も、変化した社会環境や新しい生活様式を前提とし、これに対応して行くことが求められます。昔から「ピンチはチャンス」と言われますが、地域連携部会も今を変化への対応を進める大切な時と捉え、CCクラブの次へのステップUPのために、微力では有りますが活動してまいります。



会報部会

古橋 義弘 (1期)

昨年度に引き続き同じメンバーとともに活動することになりました。

社会全体がコロナ禍の中、皆さん個々の活動に制約を受けています。そのため例年なら7月中旬には発行してきたCC通信は11月に延期せざるを得ませんでした。本誌による情報をお待ちの皆さんにはご迷惑をかけています。

今年は会報部員が現場に出かけて記事を書くという方法を取りたかったのですが、これもまた先送りとなっています。

新型コロナウイルスの関係で、新入の部員にも影響があって入部しにくかったのではないかと思います。積極的に入部していただき、新しいCC通信

制作体制ができあがっていくことを願っています。

多角的にコミュニケーションの場を求めてみたいと考えている方、ぜひ会報部会に入って活動してみませんか？



総務部会

岩佐 徳太郎 (9期)

総務部会はCCクラブ活動の円滑な運営を図るため、運営委員会に必要な資料及び議事録を作成し、会員の皆様にお知らせしております。具体的には議事録や各種イベント等のホームページ掲載並びにメールを使った一斉送信及び郵送によりお知らせしています。

またCCクラブ会員の名簿の管理を行うとともに、総会、活動報告会、ホームカミングデイ等のイベントの準備・進行・運営に関わります。

総務の活動は、港区行政、明治学院大学や社会福祉協議会等の関係団体の情報、CCクラブ会員の様々なボランティア活動の様子などを総体的に知ることができます。

地域や関係者の皆さんと活動を通じて交流し、いわば人と人とのつながりのメリットを何かしら活かし、生きがい、充実感を醸成していくことができる場と思います。

部の活動は、部員の皆さんと相談し、協力しながら楽しく運営しています。

ぜひ、皆さんも参加して一緒に活動しましょう。



学ぶ喜びと出会いをありがとう！

～13期生から寄せられた声～

昭和のあの近隣との触れ合いは皆無になってしまった今の状況に、恐怖と不安を感じ受講を決めました。久しぶりの学生気分、講座はどれも興味深く楽しい時間でした。コロナ騒動のため、宿泊研修会以降の予定が全てキャンセルとなったのは残念ですが、人と人が繋がり合える地域づくりのため活動できればと思っています。 **K.F.**



入学式

入学して良かった。高齢者の生活保護受給者増加や孤独（死）、高い貧困率の下での子どもの養育など母子家庭が抱える深刻な課題、その人達に対する生活支援の取り組み等・・・、おそらく自分一人ではこの先も知る事が無かったであろう社会の様々な深層について、まだ断片に過ぎないが認識を深める事ができた。遠方からお見え下さった講師の方をはじめ先生方関係者の皆様に深く感謝申し上げたい。 **伊藤 恭二**

コロナウイルス禍で何とも完了形のないCC大学修了となったが、この一年間気づきが多く、束の間学生時代にかえることができ、懐かしく楽しいものであった。受講内容が直接に日常生活や社会参加時に効果が見える訳ではないだろうが、考え方の基になり選択肢の幅が広がると考えている。また港区政の現状を学べたのも良かった。社会参画時にこの学びを生かしていきたい。

M.K.



入学式出席者の皆さん

昨年4月の入学式以来今年2月までの約一年間、本当にあっという間でした。学生時代とは違って自分の意志で勉強しましたので、とても充実していました。息子が明学OBでしたので、早い時期に事務職員の方にPRしたところ顔と名前を覚えて戴いたこと。授業以外でも新しい出会いがあり、通学も楽しみでした。残念でしたのは宿泊研修会と修了式祝賀会の中止。僅か1日の休講で皆勤賞を逃したことでした。いずれにしても、明学の教職員の皆様に感謝と御礼を申し上げます。それにしても、コロナ恨めしい。 **安住 芳英**

一年間CC大学に通って、知らない事を学ぶ事の楽しさを改めて実感しました。又、知っているようで知らなかった社会福祉についての成り立ちや歴史、実情、問題、港区の取り組みなど理解を深める事ができ、漠然と何か地域でお役に立てる活動がしたいと思っていたのが、一步踏み込んで考えられるようになりました。今後はCCクラブのお仲間と連携して活動して行きたいと思います。 **小川 寧子**



スポーツ実習

港区内各地域で今後の「より良いコミュニティづくり活動」に役立つ基礎的な講義や福祉・健康関連・一般教養等幅広く約一年間仲間と楽しく学ぶことができたこと、この機会を企画提供下さった港区・関係者各位に感謝致します。同時に年初から中国を発生源とする新型コロナウイルス感染者の世界的な拡散で異常事態となり、国内での感染拡大防止の観点から修了式等が中止されたことは誠に残念なことでした。 **金城 恒夫**

昔の若い学生時代に戻ったような気分で楽しく過ごしたCC大学での私の一年、あつという間の感じです。CC大学で、地域の皆さんと知り合いができた事、講義のテーマも福祉系、区の行政関係、その他予想外の文学、美術、音楽等、とにかく広範囲にあって良かった。どの科目も興味を持って受講でき、登校日が楽しみでした。最後の仕上げを期待した3月の宿泊研修がコロナウイルスで中止になったのは残念ですが、いつの日か再び学園でみんなで集う日があればと思います。

コロナウイルスの早い収束を願って外出など自粛しています。
岸田 貞子

左膝関節（人工関節）への手術のため、3月末より北里研究所へ入院。4月末、退院できましたが（コロナ感染予防のため早期退院）、暫く通院、リハビリにて、先ずは回復に向け専念したいと思います。
呂楽 加代子

母の介護で、区の高齢者福祉施設を利用致しました。施設での、介護家族が参加する事業、行事、意見交換会を通し、近い将来当事者となる私は、それまでの間に何ができるかと考える様になりました。

一年間の講義を通じ、現在居住する140軒程の地域の中で具体的に携われる事を考えるよい時間になりました。
K.S.



見学（増上寺）

一年間大変お世話になり有難うございました。経験豊富な先生方による幅広い講義は、それぞれに興味深くとても有意義なものでした。福祉施設訪問では、さまざまな問題を抱えている人たちが居ることを知り自分には何ができるかを考える大変貴重な体験となりました。

CC大学での沢山の出会いや学びに感謝してこれからは地域の活動に参加したいと思います。

松田 美千代

2020年が明けた時こんな日本、世界を誰が想像したでしょう。見えない敵新型コロナウイルス感染拡大の影響で宿泊研修、修了式祝賀会の中止、本当に残念です。

有意義な講義を受け、人との出会い、無事終了できたことに感謝しております。健康に気をつけながら地域活動に貢献したいと考えております。一年間ありがとうございました。御礼申し上げます。
杉木 靖枝

CC大学でもう一度学生時代に戻り学べた事がとても楽しかったです。これまで生きてきた経験をもとに学べたので、何れのテーマも深い理解に繋がりとても有意義でした。また、カリキュラムがこれからの人生に深く関わってゆくテーマに絞られ、これからの社会生活の中でも活かして行けるものと思います。CC大学で色々な人と出会いとてもよい刺激を受け、友人もできた事は大きな喜びでした。
清水 和美



議会棟見学

昨年4月よりCC大学に参加させて頂きありがとうございました。新型コロナウイルスの蔓延により合宿や修了式が中止となり残念ではありましたが、多くの事を学ばせて頂きました。河合先生の初めの授業で講義と映像から社会福祉の現実を聞き、ショックを受けました。他の科目の先生方の授業も参考になり、これからどう受けとめ、参加して行くのか良く考えながらはじめてみたいと思います。港区、明治学院の皆様方に感謝申し上げます。
長島 幸子

楽しく充実した一年間でした。学びの場であり、新たな仲間との出会い・つながりの機会を持てました事を大切にして、これからの活動にプラスにしたいと思います。

また、突然の新型コロナウイルスの広がり研修旅行や修了式ができず、残念でした。

内田 夕貴子



自然探索（1G）

CC大学に入学すると親切なスタッフの方々がお世話してくれます。授業は現在とこれからどの様な方向に人生を歩んでいったらいいのか、芸術、金銭関係、身の回りの制度、そのほか豊かな学校の施設や港区の所有している物を使って、高レベルの知識の先生方から学ぶ事ができます。それに加えて、色々な人生経験の有る仲間達と交流を持つ事ができ、私にとってはこの知識と素敵な友達ができた事は人生において大きな財産になりました。この学校に学び得た事は色々な皆様のおかげです。心から感謝します。また今後ともよろしく願います。

野々山 直美

6月末の退任を機に、何か学びたい、また、できればそれを祖父の代から含めると100年近く住み続けている高輪の地域活動に役立てたいと思っていました。区報を見て、まさにピッタリ、直ぐに応募いたしました。予想以上に充実した講義内容、そして多種多様な方々と交流ができ、とても有意義な一年でした。スタッフの皆様、お世話になり有難うございました。

廣瀬 信一



自然探索（2G）

広い分野で学習できたことは良かったです。福祉関係の授業が多かったような気がしますが、できれば教養関係の授業がもう少し欲しかったです。最後の締めが全くできなかったことが残念です。いつかオンラインではなく、直接仲間と語り

合う時間をいただきたいと願っております。希望ですが、修了後も図書館など学校の施設が使用できれば嬉しいです。

岩井 眞知子

千葉より転居して2年余り、初めての土地で知り合いもなく無為な日々を送っていたところ、区の広報誌でCC大学のことを知り早速応募しました。千葉でも同様の、アカデミーと称する4年間にわたるシニア大学で郷土史などを学んでいました。

CC大学では、港区の現状や、施設巡りなど、新参者としては大変勉強になりました。又、ボランティア活動にも参加してみたいと思うようになりました。80歳を目前にして、こんな経験ができたことを感謝しています。

雨宮 時子



自然探索（3G）

いくつかの同窓・有志の会などに参加させて頂いているが、CCクラブほど、コロナ禍と私たち13期生に対して、いろいろ不憫の士を頂いているところはない。そのせいか、現実にはまず本当にこの災禍に逢われたお気の毒な方々や、実社会で理不尽な環境にある、医療従事者・学生・所謂社会的弱者そして働き盛りの社会人に対して、何も行動をとっていない自分に責任を感じてやまない。だから、まず陰性で居続けたい。

谷住 哲朗

私は、明治学院大学の校門をくぐるたびに、ワクワクし、教室で、教授から、13期生のみなどと、講義を受けられたことが、幸せでした。3グループに分けて、グループ意識を持たせて、団結心をうみました。また、CC大学では、カリキュラムが、福祉、行政等だけでなく、健康・スポーツ、社会見学まで、幅広い知識を学べました。今後は、修了生の絆を大切に、地域に還元できたらと思います。

齋藤 初美

2020年度 運営部門活動報告

2020年2月下旬より、CCクラブ運営部門の活動は新型コロナウイルス感染防止を意識した運営を余儀なくされました。この間、2019年度体制から2020年度体制へ移管しました。新旧の運営委員、部会員を始めCCクラブ会員皆さまのご協力をえて、メール、リモート会議も利用し運営しています。

2020年第5回CCクラブ総会 (書面総会)

2020年3月の役員会、運営委員会から今年度総会について検討を始めました。

総会の議案内容については、1月より各部会と地域CCクラブで原案を作成し、役員会で検討し3月の運営委員会へ提案をしました。4月からは運営委員会は新体制になりましたが、総会の形式を会議形態ではなく書面総会にすることを決定いたしました。

日程

- 5月18日(月) 役員会総会議案承認
- 5月27日(水) 運営委員会総会議案承認
- 6月3日(水) 明治学院サービスより議案発送
- 6月20日(土) 書面表決の締め切り
- 6月24日(水) 結果を運営委員会へ報告

議案

- ① 第1号議案 2019年度活動実績
- ② 第2号議案 2020年度活動計画(案)
- ③ 第3号議案 役員選任の件

結果

- ・書面表決6月22日(月)最終集計
- ・はがき・FAX268通、メール93通、合計361通の回答があった。うち、賛成361通、反対0通、回答記載不明1通、意見3名であった。
- ・CCクラブ規約第5条第5項「決議は出席会員の過半数を持って行う」の規定により、第1号議案「2019年度活動実績」、第2号議案「2020年度活動計画(案)」、第3号議案「役員選任の件」は全て承認された。

6月22日の最終集計をした時点で2020年度役員が正式にスタートしました。

なお、議案内容については6月3日に会員全員に発送した書類であり、結果については運営委員会に報告後、ホームページに掲載しております。

2019年度活動概要についてはホームページに追加資料として掲載しております。

2020年前半運営部門活動

2020年度方針について

総会で2020年度活動計画を承認していただきましたが、状況の変化により方針を追加し運営することに致しました。

【2020年度運営方針】

CCクラブ内のコミュニケーションを良くし、多くの方々が学びを生かした自己実現の支援をする。

- ① 会員が互いに協力し合い、新たな日常を意識し地域活動参加を積極的に行います。
- ② 新しい生活様式を意識しながら運営部門のコミュニケーションをより良くし、活動に反映していきます。

【2020年度活動テーマ】

新しい生活様式の模索と試行による地域・部会活動の活性化を目指す。

- ① CCクラブ運営について、会議のあり方や活動の方法を現状に即した形式を取り入れます。
- ② 新しい活動の形態を模索・試行していきましょう。
- ③ 地域・行政・大学との関りを活かして、活動の拡大を目指します。

【2020年度活動テーマに追加する項目】

- ① 活動報告会を実施することを検討する。
- ② 新しいボランティアについて会員活動を支援すると共に行政その他との連絡を密にする。
- ③ 今後の活動について新型コロナウイルス感染状況について十分な配慮をする。



写真上：9/30運営委員会
明治学院大学本館1254教室
写真下：Zoom参加者

オンライン会合体験会

企画部会では役員会の協力の下、今後多用されると思われるオンライン会議や会合に備えて、容易にオンライン会合に参加あるいは主催者となってミーティングの開催ができるようになるためのオンライン会合体験会を実施しました。

体験会はオンライン会合が初めての方を主に対象にして7月7日午後、8日午前、9日夜間の各1時間ずつ3日にわたり実施しました。

参加者は3日間で延べ31名、スタッフを含めると延べ57名、2日にわたる重複参加者も多くいました。

参加された皆さんは大変熱心で開催時間の1時間前から入り始め、開始の時間にはほぼ全員がそろっているという熱のこもったものでした。

開催後には研修を生かしてZoomを利用した集まりなどに発展したグループや、次回の研修を期待している人もいます。

またオンラインミーティングに消極的であった方が積極的に利用されるようにもなり大変有効な体験会でした。(平田 渥美・記)



参加者の皆さん

◇参加者の感想

外出先から参加しましたが、問題なく参加できました。

家の中から参加するだけでなく、いろいろな場所からの参加ができ、活動範囲に合わせて利用できると思いました。

こういった形で参加でき、経験を積んでいくことが大切だと感じました。皆さんもぜひ覚えて、仲間でもいろいろな活用方法を話し合ってみてください。きっと新しい景色が眼前に広がることでしょう。興味深い企画をありがとうございました。

(古橋 義弘・記)

地区CC会議

今年2月22日に開催を予定していた活動報告会が中止となって以降、新型コロナは私たちCCクラブの活動に大きな影響を及ぼしました。「三密防止」「ソーシャルディスタンス」など新しい物差しが登場し、ほとんどのボランティア活動や会議の実施が難しい状況となりました。地域連携部会も幾つかの取組みや会議を中止せざるを得ない状況となりました。

その後、7月17日にZoomで開催した第一回地区CC会議では、本部をHUG高輪に置き、参加者とオンラインでつながり意見交換の場となりました。ほとんどのボランティア活動が中止に追い込まれた中、しっかりと新型コロナへの対応を取り、規模は縮小しながらもコツコツと活動を再開されている報告が複数ありました。



HUG高輪から送るCサイン

地区CC会議を開催した7月頃は、ほとんどの活動を実施できず、閉塞感を感じる時期でしたが、この活動再開の報告は出席者それぞれが元気をもらえる情報となりました。

地区CCの活躍を期して参加者全員でCCクラブのCサインを交換しました。

(地域連携部会 森下 和彦・記)



参加者全員で送るCサイン

成年後見制度研修講演会

7月28日（火）、港区社会福祉協議会の木村礼子係長を講師にお迎えして“成年後見制度について”の研修講演会をゆかしの杜の白金台区民協働スペースの会場とZoomを使ったオンラインを併用して企画部会主催で開催しました。



講師の港社協 木村係長

木村係長からはわかりやすく丁寧にお話しをしていただき、また講演後のフォローも丁寧にしていただきました。



ゆかしの杜 会場



資料を共有

参加者は会場に9名、リモートでの参加17名、さらに社会福祉協議会からもリモートで参加され講師を含めて合計32名でした。

講演会に先立って3回の予行演習で問題を洗い出し、その対策を検討して備えた結果大きな問題もなく初のオンライン研修会は成功のうちに終了しました。

(平田 渥美・記)



オンライン参加者

消毒ボランティア活動

6月18日から7月18日まで赤羽小学校で消毒ボランティアとして参加しました。

子どもたちが体育の授業で使った用具を消毒するのですが、まず担当の先生から消毒の仕方を教えていただきます。

「ペーパータオルに消毒液を吹き付けて濡らし、一方向に拭いていってください」

カラーコーンやタイガーバー、フラフープ、輪投げの輪などが主だったものでした。

カラーコーンとカラーバーを使ってサッカーのゴールにして遊ぶのかな、などと想像しながら消毒にあたりました。

また、「今日は、肋木（ろくぼく）をお願いします」という先生の言葉で体育館の壁際に移動、昔ぶら下がったりよじ登ったりしたなど思いながら、一本一本消毒をしていきました。

私の小学生時代は、ドッジボールが流行っていましたので、わがクラスは2つのチームに分かれて休み時間、昼休み、さらには放課後などで遊んでいたことを思い出します。2つのチームの分け方は、クラスで運動神経の良い2人がじゃんけんをしながら1人ずつチームのメンバーを取り合っていくという方法で、チーム力の釣り合いを取りました。途中で入りたい子がいればその時負けているチームに入ります。

本来はPTAへ最初に声がかかるはずですが、コロナの関係で保護者会が開かれず、したがって本部役員も決まらない中、保護者同士の連絡がつかない状態でしたので、地元在住の石川さんが赤羽小学校の地域コーディネーターという関係で声がかかったものでした。7月半ばからはPTAが加わり、消毒箇所も広がりました。PTAは音楽室、理科室などの特別教室の使用器具の消毒を受け持ちました。

(古橋 義弘・記)



赤羽小学校体育館での消毒の様子

運営委員会報告

2020年度の運営委員、部会員、地域CCクラブ委員は以下の通りです。

2020年度 CCクラブ運営委員会・部会メンバー

	代 表	石川 啓子⑧	副 代 表	太田 則義⑦
運営委員会	運 営 委 員	運 営 委 員	運 営 委 員	運 営 委 員
1 期	② 梶木 美智子 ③ 古橋 義弘	7 期	② 太田 則義	11 期
2 期	② 野口 美津子	8 期	③ 松木 勇	
3 期	② 雨宮 武	9 期	① 昌子 浩人	12 期
4 期	① 佐藤 陽信			
5 期	① 呉 東富	10 期	① 板倉 弘明 ② 瀬能 正実 ③ 丸山 幸秀	13 期
6 期	② 松井 千穂			
	② 大竹 章久			
				① 三浦 紀久子 ② 鈴木 興雄 ③ 朝比奈 敬子 ① 本藤 英敏 ② 林 和典 ③ 中嶋 博 ① 金城 恒夫 ② 谷住 哲朗 ③ 東 公子

部 会	部 会 長 副 部 会 長	部 会 員			
企 画 部 会	平田 渥美⑫	野口 美津子②	野村 知義⑧	柳川 薫子⑪	小川 寧子⑬
	阿部 令子⑩(副) 橋本 順子⑪(副)	丸山 保夫⑦	西田 宏子⑨	中嶋 博⑫	清水 和美⑬ 藤井 宝⑬ 設楽 康二⑬
H P 部 会	福岡 哲郎⑩ 斎藤 正精⑥(副)	石賀 幹春⑨ 岡部 正実⑩			
地 域 連 携 部 会	森下 和彦⑪	呉 東富⑤	大塚 堅一⑪	廣瀬 信一⑬	
	今泉 昌代⑩(副) 大沼 礼子⑩(副)	及川 廣子⑥	進藤 君枝⑪		
会 報 部 会	古橋 義弘①	榎本 和夫⑦	境 静子⑩	鈴木 興雄⑪	岩出 好枝⑫
	瀬能 正実⑩(副)	太田 則義⑦	佐藤 芳男⑪	中満 美紀⑪	
総 務 部 会	岩佐 徳太郎⑨	石川 啓子⑧	國久 昇⑪		
	秋元 宏⑧(副)	丸山 幸秀⑩	河野 洋子⑫		

・部会長・副部会長の(副)は副部会長

地 区 C C ク ラ ブ (運 営 委 員)			
芝CCクラブ	大塚 堅一⑪	明虹会(港南・芝浦・台場地域)	恩地 亨輔⑩
高輪地区CCクラブ	大沼 礼子⑩	3Aクラブ(赤坂・青山・麻布地域)	山本 直洋⑧

運営委員会の●数字はグループ、それ以外の欄の○数字は期です

地区CCクラブ代表

地 区 C C ク ラ ブ (代 表)			
芝CCクラブ	新井 隆治③	明虹会(港南・芝浦・台場地域)	斎藤 正精⑥
高輪地区CCクラブ	太田 則義⑦	3Aクラブ(赤坂・青山・麻布地域)	及川 廣子⑥

編集後記

令和2年はコロナ禍により定期総会・ホームカミングデイ・交流会や他行事も見送られ、令和2年度1号としてのCC通信第44号も11月の発行となりました。高輪地区総合支所協働推進課長 鳥居誠之氏、CC大学統括コーディネーターになられた岡本多喜子氏のご挨拶をいただくとともに、CCクラブ新体制を主に紹介させていただきます。

コロナ禍で活動が自粛されているなかZoom会議が中心になって意見交換がなされるのでしょうか、ボランティア活動としては何か物足りないと感じるのは私だけでしょうか？

寒い季節になりました、コロナやインフルエンザにかからぬように、マスク・手洗いは励行しましょう!!
(10期 瀬能 正実)

(表紙レインボーブリッジの写真は、平田 渥美氏の提供)



チャレンジコミュニティ通信 vol.44 2020年11月20日発行

発行者 チャレンジコミュニティ・クラブ

事務局 明治学院大学 総合企画室社会連携課
(株式会社明治学院サービス)

〒108-0071 東京都港区白金台1-2-37

Tel.03-5421-1555 Fax.03-5421-1556

Email ccclub@meijigakuin-s.co.jp

http://www.minato-ccc.jp

会報部会

部 会 長 古橋 義弘(1期)

副 部 会 長 瀬能 正実(10期)

部 員 太田 則義(7期)

部 員 榎本 和夫(7期)

部 員 境 静子(10期)

部 員 佐藤 芳男(11期)

部 員 中満 美紀(11期)

部 員 鈴木 興雄(11期)

部 員 岩出 好枝(12期)